

# シゴト ファイル

## eスポーツのプロ選手

ちょぶりさん(22)

JUPITER所属

### 冷静なメンタルが勝敗分ける



eスポーツのスクールの講師としても活動するちょぶりさん。4月、東京都中央区

#### あゆみ

1998年 茨城県生まれ  
■小学校時代  
幼稚園の頃からテレビゲームに慣れ親しむ。「ポケットモンスター」や「ドラゴンクエスト」などのタイトルをプレー。サッカーを始めた影響で、ウイニングイレブンも始めた

■リアルもゲームもサッカーに没頭した中学校時代  
サッカー部に入部。部活帰りに友達の家で大会を開くなど、ウイニングイレブンにはまるように。ほぼ負けない「無双状態」だった

■オンラインで腕磨いた高校時代  
茨城県立笠間高校(笠間市)でサッカー部に入部。キャプテンも務めた。2年生の時にひざに大けがを負い、1年近くプレーできない状況に。その間にウイニングイレブンのオンライン対戦を始めた。最初はまったく歯が立たなかった

■2017年  
美容師の専門学校に進学

■19年  
美容院に就職するも、同じ年に開かれた茨城国体文化プログラムのeスポーツで準優勝したのをきっかけに、プロ選手の道に進む

#### ターニングポイント

##### 国体準優勝がきっかけ

初めて公式大会に出場した2019年の茨城国体文化プログラムで準優勝して、プロのチームから声がかかりました。大会に出るまで、eスポーツという言葉自体、なじみがありませんでした。資格を取って始めたばかりの美容師の仕事も幼い頃からの夢。悩みましたが好きなゲームが仕事になるなら…と、思い切って仕事を辞めて、今の道を選びました。



ゲームのプレーやメッセージを動画で見られます

これだけは！  
アイテム



ゲームをする時に使うコントローラーとヘッドホン、授業のための資料をつくるノートパソコン。

先輩へ  
メッセージ

#### 「好き」が状況を変える

ゲームのプロ選手になるなんて、人に自慢できることではないと思っていました。でも、好きな思いを持ち続けるうちに、少しずつ状況は変わりました。どんなことでも、なりたいたい夢を持ち続けてほしいです。

対戦型のゲームで競うeスポーツ。ちょぶりさんは、世界的に人気のサッカーゲーム「ウイニングイレブン」シリーズ専門のプロ選手です。昨年はオンライン戦で勝率94%の戦績を残しました。ドリブルでの切り崩しや細かいパス回しが得意です。よく使うチームは、イタリアの強豪ユベントスです。

大会前になると、食事と風呂以外は、長時間ゲームをしても疲れにくいゲーミングチェアの上で過ごします。シューティングなど趣味のゲームに費やす時間が3分の1を占めます。ウイニングイレブンと比べると、そちらの実力は「全然です」。

選手として練習するのは主に夜から明け方にかけて。オンラインで人と対戦して力を磨く必要があるため、多くの人が一息つく時間に集中します。ボイスチャットで会話をしながら楽しめます。「高校時代にやっていたこととあまり変わりません(笑)」

選手として、睡眠時間や食生活など体調管理にも気を配ります。eスポーツも継続が大切です、少なくとも1日1試合(10分ハーフ)プレーするのが日課です。新型コロナウイルスの影響で、eスポーツもオンラインの大会が増えました。「周りに観客がいて、対戦相手の表情や雰囲気を感じてプレーするのは緊張感が違う」と話します。

不用意なミスで失点する、納得できない反則を取られるなどゲーム内で理不尽なことが起きて、常に冷静な心が必要です。「メンタルの要素がかなり重要です」。得点差をつけられても焦らず、練習で培ったプレーを貫けるかが勝利のカギをにぎります。

選手としての大きな目標は世界大会の「eフットボールオープン」制覇です。22歳という年齢は、この世界では「普通」。30、40代になると選手を続けるのは難しくなると考えています。

①継続力  
どんなに好きなことでも、毎日コツコツと続けるのは簡単ではない

②体調管理  
寝ない、食べないを繰り返すと、ゲームで最も大切な集中力が保てない

③楽しむ  
上達の近道であり、一番重要なこと

シゴトの極意

昨年開講した「esports 銀座 school」(東京都中央区)では、基本操作から細かい戦術まで指導する講師を務めます。プレー動画の配信にも力を入れます。将来的には選手に助言するコーチの仕事にも興味があるそうです。「サッカーゲームはこの先もなくなることはないはず。一生関わり続けたいです」(松村大行)